説教要旨「祈れるって幸せです」

ヨハネによる福音書　１７章　１～１３節

「祈れるって幸せなことです」。この言葉は、何か願いがかなえられたから幸せだというのではありません。あるいは、何不自由ない生活が与えられて幸せだということでもありません。祈ること、そのこと自体が幸せだという言葉です。ここに“祈り”の本質があります。神様は全てをご存じです。であるならばわたしたちの“祈り”に多くの言葉は必要ではありません。「神さまごめんなさい」「神さま助けてください」「神さまありがとう」…祈る言葉は、それぐらいでもう十二分です。「神さま」と呼びかけ、神さまに思いを向け、そこで神さまとのつながりを確認する。そこに祈る喜びがあります。

ヨハネによる福音書１７章には、イエス様が捕らえられる直前に祈った、大祭司の祈りと呼ばれる祈りが記されています。その内容は大きく３つの事柄に分けられます。第一にはイエス様自身の事柄で、十字架の死を前にして、「栄光を与えてください」と父なる神様に祈っています。第二に弟子たちのための祈り、そして第三に、その弟子たちによってイエス様を信じるようになる人々、つまりわたしたちのために、わたしたちの信仰が無くならないように祈ってくださるのです。

そしてイエス様は「世にいる間に、これらのことを語るのは、わたしの喜びが彼らの内に満ちあふれるようになるためです」(13 節）と言われています。イエス様はこの後すぐに捕らえられ、嘲られ、なぶり者にされた上で、十字架につけられます。そのイエス様が言う“わたしの喜び”とは、どんなに苦しくても、どんなに孤独であっても、どんなに惨めであっても、決して神様に見捨てられてなどいない。神様が共にいてくださる。そう信じることの出来る喜びです。

イエス様と同じ喜びを感じることのできる様に、イエス様はわたしたちのために祈っていてくださいます。わたしたちがどのような状況に置かれても神様から離れてしまうわことのないように。神様が共にいてくださる＝インマヌエルの喜びに満ちあふれるようにと。

（２０２２・５・２９　説教者：稲垣真実）